

国際交流基金助成事業報告書

薬学部 4年次生 北川 結望

1. はじめに

この度、国際交流基金の助成を受けて、2019年3月4日から3月18日の2週間、オーストラリアに語学留学をしたので、報告いたします。滞在期間中は、ニューサウスウェールズ州にあるTAFEという学校に通い、その学校から車で10分ほどのところにホームステイをしました。この留学プログラムに参加したのは、英語力とコミュニケーション力の向上と、日本と海外の薬剤師の役割の違いを学ぶこと、また、文化の違いに直に触れてみたいと思ったからです。

2. TAFEでの生活

まずTAFEとは、ただの語学学校とは異なり、ビジネスやファイナンス、アート、デザイン、ツーリズム、航空、教育、動物・農業学、医療・看護、美容、建築など、趣味レベルのものから就職にも繋がる本格的なものまで学べる様々なコースがある専門学校です。



(図 1 TAFE で主に使用した講義棟)

English Class

午前中はEnglish Classがありました。English Classでは、前日にホームステイ先で新しく習った単語などをみんなで出し合ったり、グループで話し合って発表するなど、ただ聞くだけの授業ではなく参加型の授業で、楽しく英語を学ぶことができました。先生方も簡単な単語に言い換えてゆっくり話してくださったので聞き取りやすく、わかりやすかったです。他国からの留学生と話す機会もくださったので、コミュニケーション能力を高めることもできました。また、アボリジニについて学ぶ機会や、海の危険性についてライフセーバーの方がお話に来て下さることもあり、オーストラリアの文化についても学ぶことができました。

Pharmacy Class

午後はPharmacy Classがあり、オーストラリアの薬の分類や種類、薬剤師の役割、医療費制度、薬局の内装、薬局で受けられるサービス、処方箋について、薬の広告についてなど、日本との共通点や相違点をたくさん学ぶことができました。中でも最も驚いた日本との違いは、薬局で禁煙や生活習慣についての相談をすることができたり、血糖値の検査やコレステロールの検査、インフルエンザの予防接種が受けられるという点です。日本と海外とではやはり薬剤師の立場が大きく異なり、海外での薬剤師の立場は日本に比べてかなり高いことを実感しました。また、実際に薬の入っていた箱や実際に使われている処方箋なども持ってきてくださり、とてもいい勉強になりました。



(図 2 実際に売られている薬の箱)

Excursion (課外活動)

学校以外では、Currumbin Wildlife Sanctuary という動物園に行き、コアラを抱いたりカンガルーに触ることができました。他にも日本では見られないたくさんの鳥や動物を見ることができました。また、グリフィス大学薬学部の見学では、授業の様子や無菌室、調剤カウンターを見せていただいたり、一包化する体験やクリーム剤の混合体験もさせていただきました。さらに、薬局見学では、薬局で売られているものについて学び、薬剤師の役割や薬剤師のほかに Dispensary assistant や Pharmacy assistant という薬剤師のアシスタントをする人や、technician と言われる調剤補助をする人についても学ぶことができました。その他、アボリジニの方にアボリジニの文化を教わったり、現地の小学校で日本の文化を教えに行くこともありました。どれも現地でしか味わうことのできない貴重な体験で、このプログラムに参加してよかったと感じました。



(図 3 コアラを抱いて写真を撮ることができました。)



(図 4 グリフィス大学の調剤カウンター)



図 5 シラミの薬。薬局見学にて、現地では気候のせいでシラミが多いことも学びました。

3. ホームステイ先での生活

ホストファミリーとは、学校が終わってからゴールドコーストのビーチへ行ったり、買い物に行ったりしました。ごはんは毎日作ってくださり、その後はテレビや映画を見て過ごしました。オーストラリアでは Netflix で映画などを見ている人が多く、びっくりしました。休日にはドライブをすることが多く、朝食後に喫茶店や教会、大きなショッピングモール、ビーチ、お土産屋などいろんな場所に連れていってくれました。スーパーやショッピングセンターでは、当たり前前にエコバックを使うこと、シリアルや野菜、果物、ミルクの種類が多いこと、1パック分の量がものすごく多いことなど、日本と違う点がたくさんあり、ただ買い物に行くだけでもすごく楽しかったです。ビーチは、どこのビーチに行ってもごみひとつ落ちておらず、砂浜も真っ白で、オーストラリアの人たちがどれほどビーチを大切にしているかがすごく伝わりました。

ホームステイ先では友達にも会わずにずっと英語を話さなくてはいけないことがものすごく不安でしたが、思っていたよりもコミュニケーションを取ることができました。最初は聞き取れなかった英語も、3日くらいすると耳が慣れてきてある程度は聞き取れるようになり、全て聞き取れなかったとしても何を言っているのかを理解することはできるようになりました。少しずつ英語力やコミュニケーション能力が高まっていることを実感できたので、モチベーションもあがり、楽しく毎日を過ごすことができました。



(図 6 家の近くのビーチ)



(図 7 最終日にホストファミリーと)

4. まとめ

今回このプログラムに参加するにあたり、英語がほとんど話せない私にとって不安はとても大きく、心配ばかりしていましたが、一緒にこのプログラムに参加した友達や添乗員さん、オーストラリアで出会ったたくさんの人たちに支えられて、楽しく、たくさんのことを学び、経験することができました。毎日過ごしていくうちに少しずつ英語の環境に慣れていくことが楽しく、当初抱いていた不安などはどんどん消えていきました。私はもともと行動力もなく、人見知りで、今までなんとなく過ごしてきましたが、今回思い切ってこのプログラムに参加して、少し勇気をだして行動することでたくさんのことを学ぶことができ、自分の世界が広がることを実感しました。これは日常生活を送っていく中でもとても大切なことであり、このことに気づくことができて幸せだと感じています。今回オーストラリアで経験したことは、自分の中で貴重な財産になることばかりだったので、このプログラムに参加して本当に良かったと思います。参加させてくれた両親に感謝し、これからもいろんなことに積極的に取り組んでいきたいです。